平成25年度公立高等学校入学者選抜制度
検証アンケート結果

神奈川県教育委員会
高校教育企画課

１　アンケートの目的

　平成25年度神奈川県公立高等学校入学者選抜より導入した新しい制度の内容について、関係者へのアンケートを実施し、その結果を検証することにより、今後の改善の必要性について検討する。

２　実施時期

　平成25年５月～６月

３　対象区分及び対象者

①　平成25年度県立高校(全日制)新入学生	全139校無作為抽出20名(計2780名)
②　平成25年度県立高校(全日制)新入学生の保護者	全139校無作為抽出20名(計2780名)
③　県内市町村教育委員会	全33市町村
④　県内公立中学校	県内138中学校 （市町村別の学校数に応じて無作為抽出）
⑤　県立高校	全141校

４　回答率

①　99.06%　(有効回答数2,754)

②　98.31%　(有効回答数2,733)

③　100%　(有効回答数33)

④　100%　(有効回答数138)

⑤　100%　(有効回答数141)

５　概要

　新しい入学者選抜制度における従来の制度からの改善点について、全15問（生徒・保護者は全13問）となるアンケートを実施した。（質問内容については次ページ以降参照）

　従来の入学者選抜制度の課題や新しい学習指導要領への対応を図るために改善した内容について、自由記載欄には、さまざまな意見があるものの、概ね肯定的に受け止められている。

　本アンケート結果を踏まえ、来年度以降の入学者選抜実施に向けて、更なる改善が必要であるものについては、新たな対応を図りつつ、より良い制度となるよう継続的に検討していく。

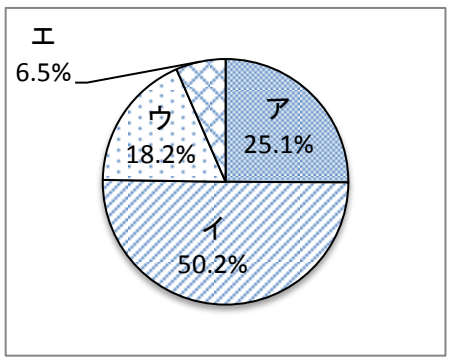
※ 数値は回答区分ごとに四捨五入しているため、合計が100となっていない場合があります。

Q1 「共通選抜」としたことは、生徒（受検生）の学校選択に役立ったと思いますか。

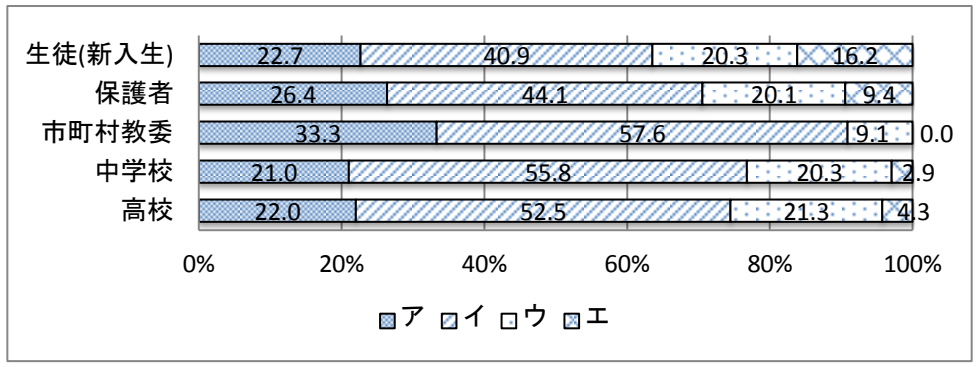
ア　そう思う　　イ　どちらかといえばそう思う

ウ　どちらかといえばそう思わない　　エ　そう思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



全体、保護者、市町村教委、中学校、高校で、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」の回答が７割以上であり、また、生徒（新入生）の回答でも6割以上となっていることから、「共通選抜」としたことは学校選択に役立ったと受け止められている。

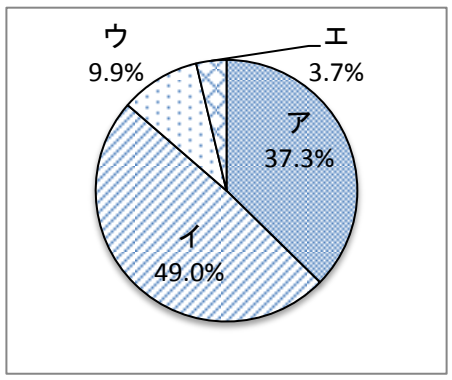
自由記載欄には、生徒（新入生）や保護者から「安全策を取ることとなり、チャレンジできなくなった。」などの声があった。保護者からは「私学との併願が必要となり、学校選びが大変だった。」という声もあった。また、中学校からは「全日制と定時制で同一日程であることに疑問が残る。」という声もあった。

Q2　学力検査と面接を「共通の検査」として実施し、生徒（受検生）の個性や能力、適性を多面的にとらえた選抜制度としたことについてどう思いますか。

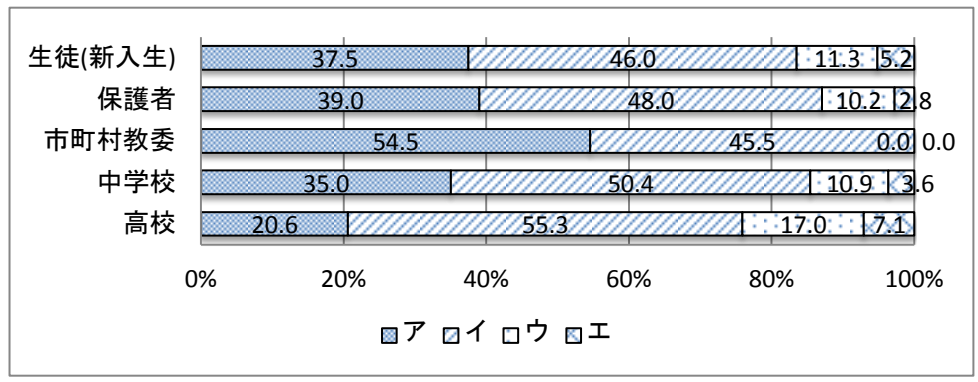
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



すべての対象区分で、「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」の回答が7割以上となっており、生徒の個性や適性などを多面的にとらえることとした「共通の検査」について、概ね肯定的に受け止められている。

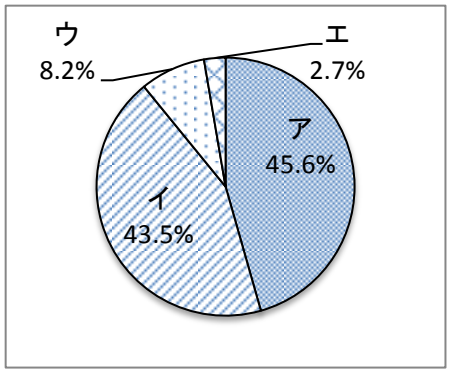
自由記載欄には、生徒（新入生）や保護者から「前後期選抜と異なり、全員が同じ検査を受けられるほうが平等でよい。」という声が多かった。一方、「共通検査の日数が長く負担であった。」という声もあった。

Q3　新しい学習指導要領に示された3つの学力の要素を的確に測れるように、調査書、学力検査、面接を選考の資料としたことについてどう思いますか。

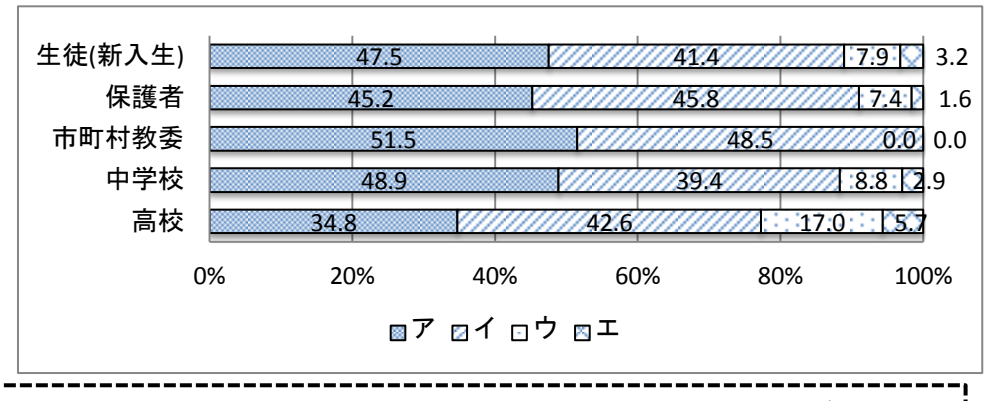
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



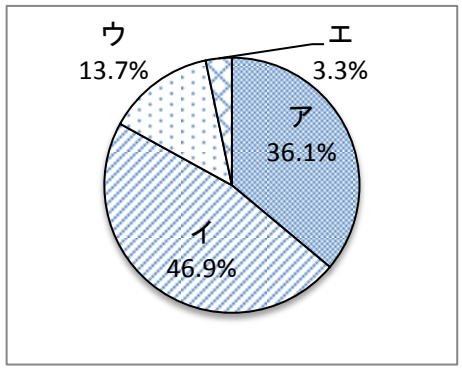
全体、生徒（新入生）、保護者、市町村教委、中学校では「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」の回答が8割以上となっている。また、高校でも8割近くとなっていることから、新しい学習指導要領に示された3つの学力の要素を的確に測る手立てとして、調査書の評定、学力検査の結果、面接の結果を資料とすることについて、肯定的に受け止められている。

Q4　これまで以上に「思考力、判断力、表現力等」を測ることができる学力検査問題とし、あわせて、一部の高校で実施していた独自問題をなくしたことについてどう思いますか。

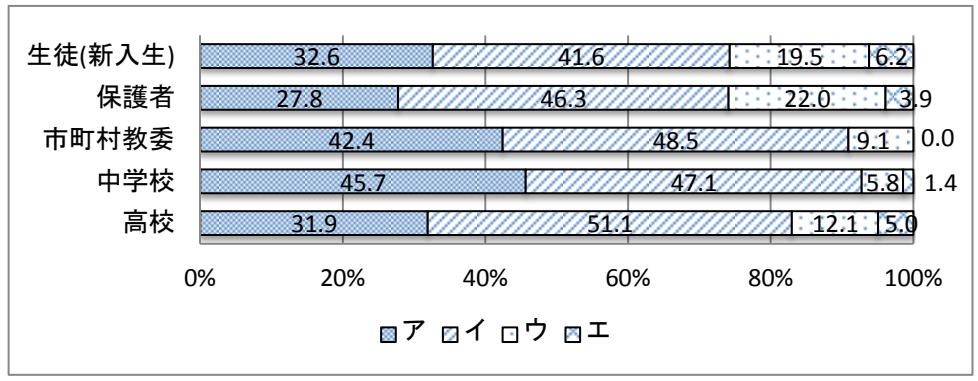
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率

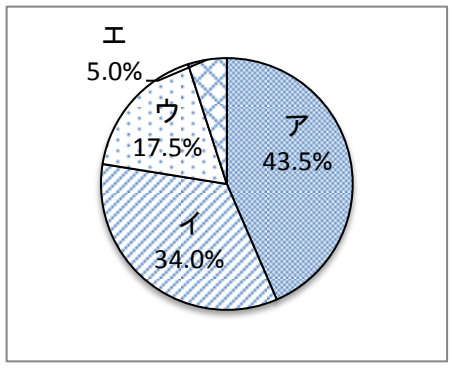


全体、市町村教委、中学校、高校で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」の回答が8割以上となっている。また、生徒（新入生）、保護者の回答でも7割以上となっていることから、「思考力、判断力、表現力等」を測る学力検査とし、独自問題を廃止したことについて、肯定的に受け止められている。

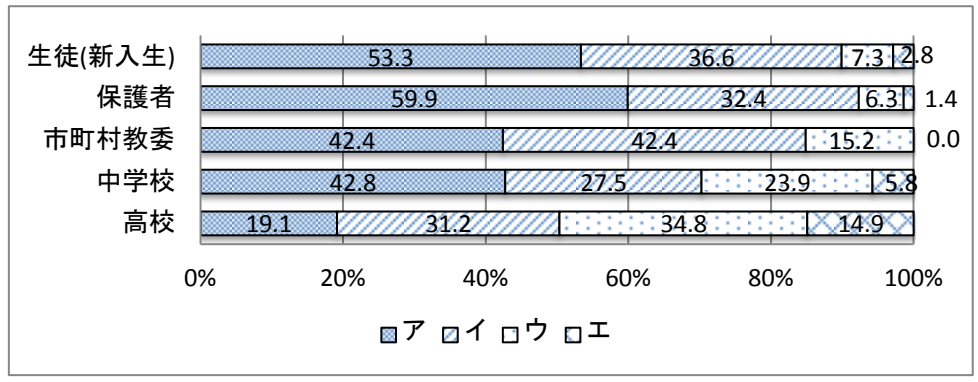
自由記載欄には、生徒（新入生）や保護者から、独自問題の存続を求める声もあった。また、学力検査について、保護者から「採点基準を明確にしないと自己採点が難しい。」、「教科によって難易度に差があった。」、「HPに載っていた出題例との違いが大きかった。」などの声が、また、高校からは「難易度の異なる問題を県で用意して選択できるようにできないか。」という声もあった。

Q5　生徒の学習意欲と活動への意欲について、面接の中で聞くようにしたことについてどう思いますか。
　ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う
　ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



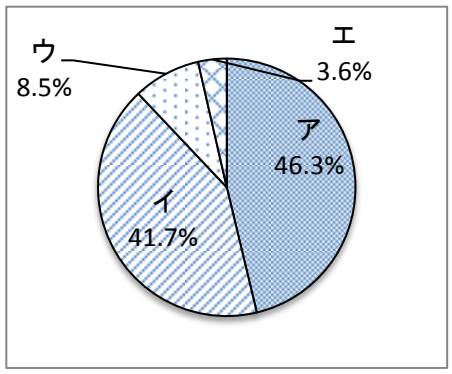
回答者ごとの比率



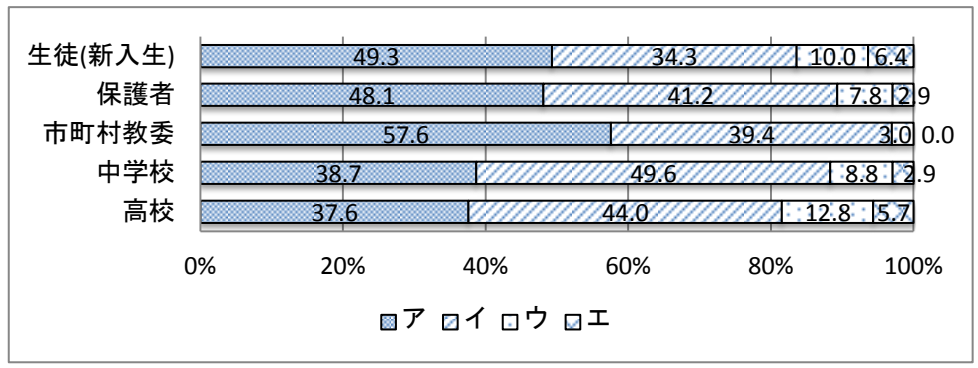
　全体、生徒（新入生）、保護者、市町村教委、中学校で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」の回答が7割以上となっており、面接の中で生徒の学習意欲と活動意欲を聞くようにしたことについて、概ね肯定的に受け止められている。
　自由記載欄には、高校から「面接の比率を下げられないか。」という声が多かった。中学校や保護者からは「部活動での実績や検定試験、生徒会などの実績を以前の制度のように、得点化して加味すべきだ。」という声もあった。

Q6　観点を事前に公表し、自らが作成した面接シートを参考に面接を実施したことで、受検生が安心して受検できる面接になったと思いますか。
　ア　そう思う　　イ　どちらかといえばそう思う
　ウ　どちらかといえばそう思わない　　エ　そう思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



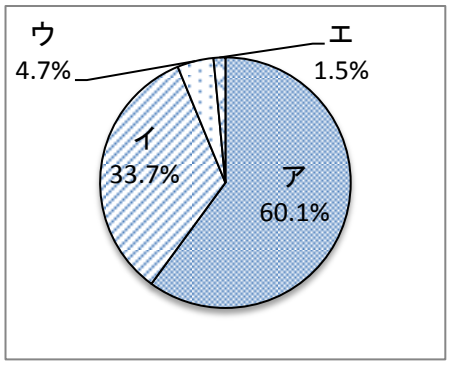
　すべての対象区分で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」の回答が8割以上であり、受検生自らが作成した面接シートを参考にして面接を行うことについて、肯定的に受け止められている。
　自由記載欄には、保護者から「面接シートを事前に作成することは有効である。」という声がある反面、「面接シートの提出または面接のどちらか一方でよいのではないか。」という声、また、中学校からは「志願変更に伴う面接シート作成についての配慮が必要である。」という声があった。

Q7　調査書については、原則として、これまで同様に第2学年と第3学年の評定を活用したことについてどう思いますか。

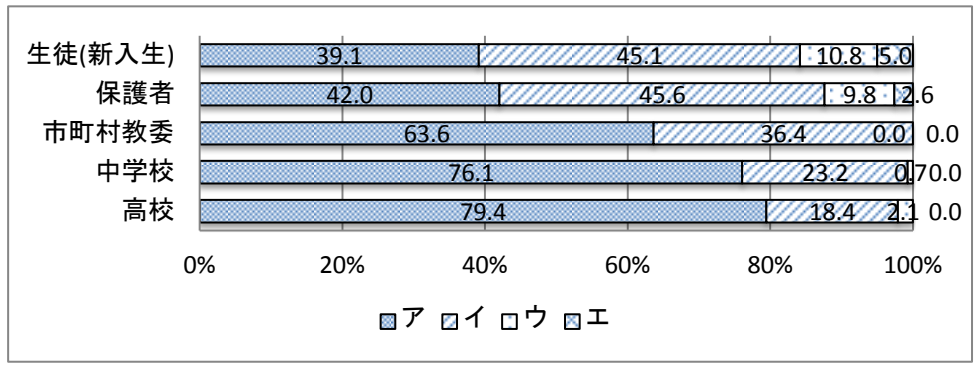
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



すべての対象区分で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」の回答が8割以上であり、調査書の評定については、これまで同様に第2学年と第3学年の評定を活用することに対して、肯定的に受け止められている。

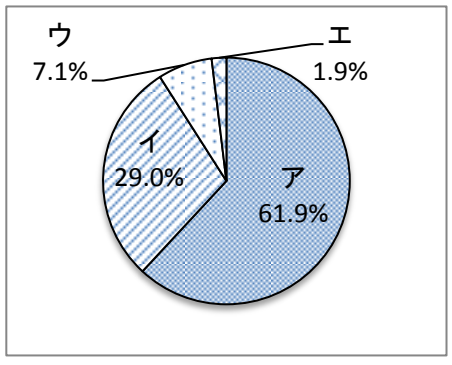
自由記載欄には、生徒（新入生）や保護者から「評定は使わないでほしい。」、「3学年の評定だけでよい。」、「1学年の評定から活用してほしい。」などのさまざまな声があった。

Q8　選抜の一体化により、選抜の募集開始時期を半月程度遅らせたことについてどう思いますか。

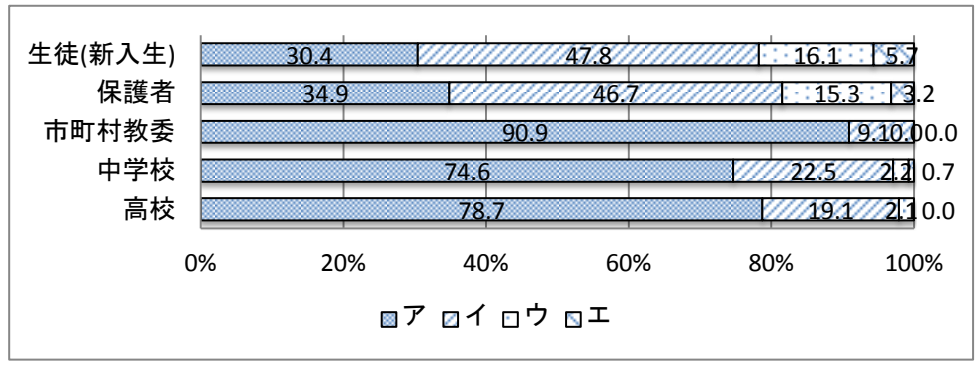
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



市町村教委、中学校、高校で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割以上であり、生徒（新入生）、保護者の回答も8割前後であることから、募集開始を遅らせたことについて、肯定的に受け止められている。

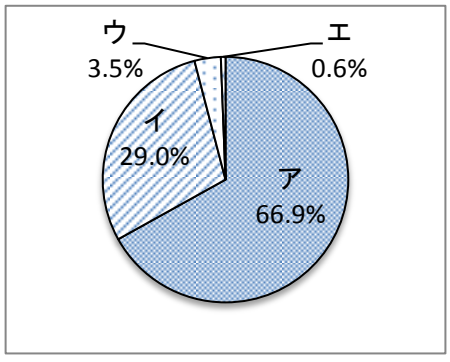
自由記載欄には、保護者から「選抜の時期を2月上旬頃にして、卒業前にすべての選抜が終わるようにしてほしい。」という声があった。逆に、市町村教委、中学校からは「実施時期をもっと遅くしてほしい。」という声もあった。

Q9　選考基準をわかりやすくして、調査書、学力検査、面接などの比率や面接の観点等を一覧表にして募集案内に掲載したことについてどう思いますか。

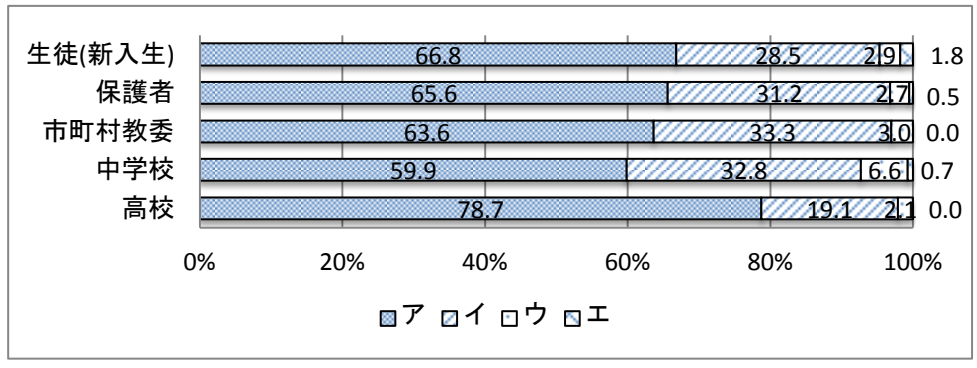
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



すべての対象区分で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割以上となっており、新制度の選考基準について、肯定的に受け止められている。

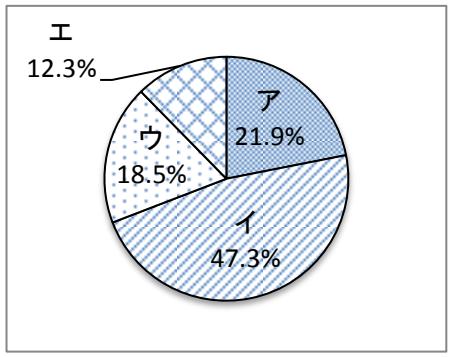
自由記載欄には、中学校から「生徒への指導が容易になった。」という声があった。また、保護者からも「わかりやすくなった。」という声があった。

Q10　全日制の選抜機会を「共通選抜」として1回にしたことで受検生の負担が減ったと思いますか。

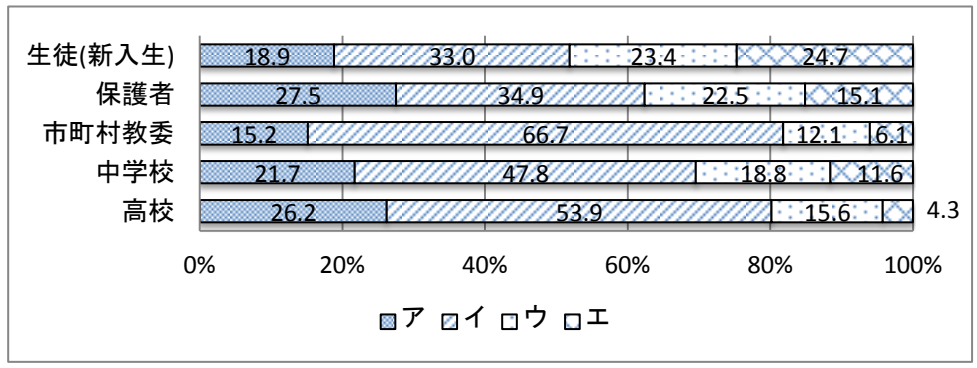
ア　そう思う　　イ　どちらかといえばそう思う

ウ　どちらかといえばそう思わない　　エ　そう思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



全体では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」という回答が7割近くを占めており、これまでの「前期選抜」と「後期選抜」を一体化したことについて、概ね肯定的に受け止められている。しかし、生徒（新入生）や保護者の回答では5～6割程度にとどまっている。

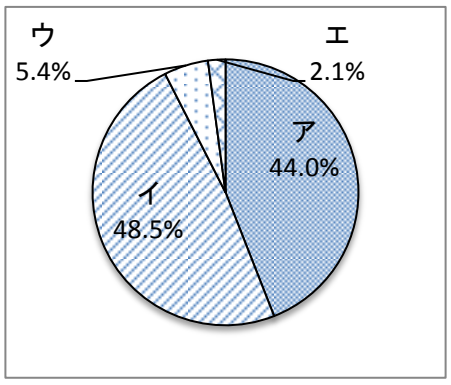
自由記載欄には、生徒（新入生）や保護者から「一発勝負となり精神的な負担が増えた。」、「私学との併願が必要となり、経済的負担が増えた。」という声もあった。

Q11　公立高校での学びの場を保証するため、「共通選抜」のあとに、定時制と通信制で「定通分割選抜」を行ったことについてどう思いますか。

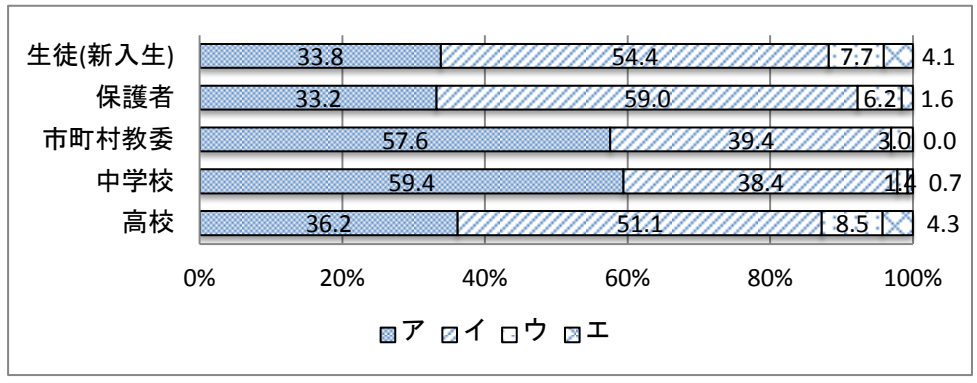
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



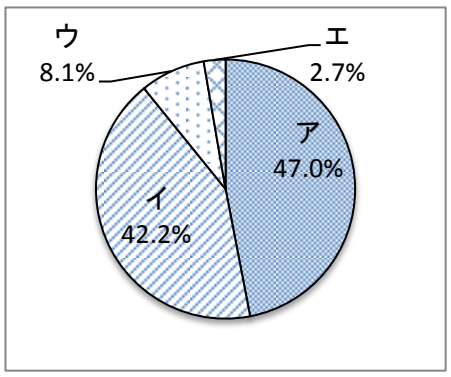
すべての対象区分で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が8割以上となっており、定時制と通信制において「定通分割選抜」を行ったことについて、肯定的に受け止められている。

Q12　各高校の特色に応じて、高校の判断で特色検査を実施できるようにしたことについてどう思いますか。

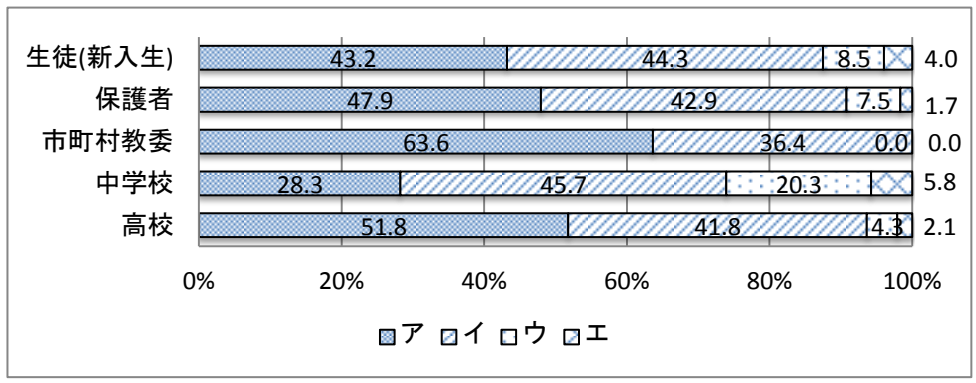
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



全体、保護者、市町村教委、高校で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割以上であり、最も低い中学校でも7割以上となっていることから、特色検査の実施について、肯定的に受け止められている。

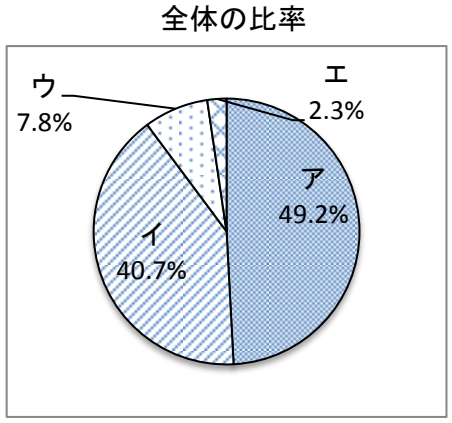
自由記載欄には、学校の特色に応じた特色検査に理解を示す意見が多い中で、「特色検査を導入すると志願変更が難しくなる。」、「特色検査実施校では、面接との選択制にしても良いのではないか。」という声もあった。また、学力向上進学重点校が実施した特色検査に対しては「独自問題と変わらない。」、「すべての学力向上進学重点校で実施すべき。」等、さまざまな声があった。

Q13　選考資料（調査書、学力検査、面接）の比率や、調査書及び学力検査について、教科ごとの重みづけを各高校の判断でできるようにしたことについてどう思いますか。

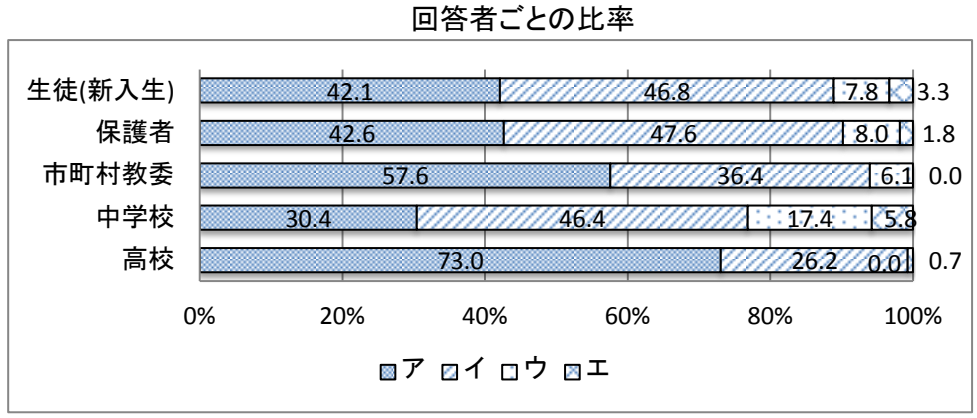
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



全体、生徒（新入生）、保護者、市町村教委、高校で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割程度となっており、選考資料の比率や調査書・学力検査の教科ごとの重みづけを各高校の判断でできるようにしたことについて、肯定的に受け止められている。

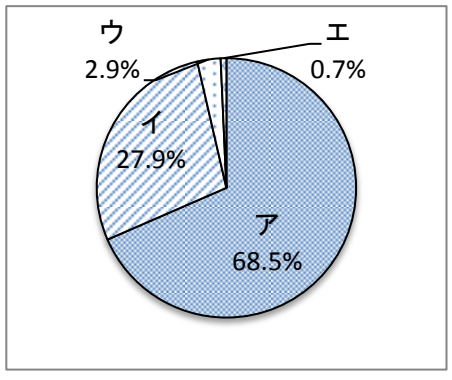
自由記載欄には、中学校からは「重点化により選考基準が複雑に（わかりにくく）なっている。」という声があった。また、すべての対象区分から「面接の比率について検討してほしい。」という声があった。

Q14　定時制の学力検査問題を、全日制と異なる問題としたことについてどう思いますか。

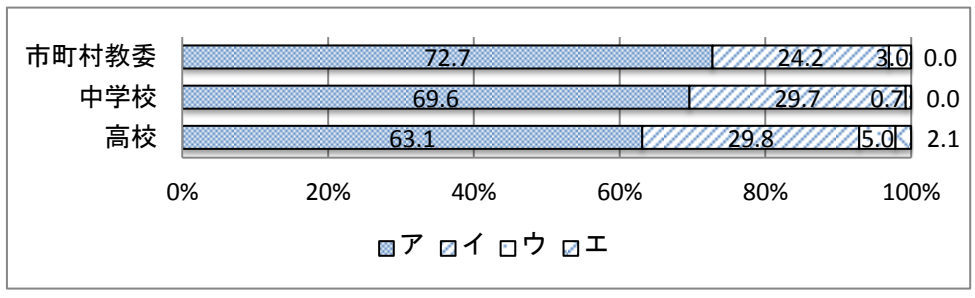
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



＊生徒（新入生）及び保護者には聞いていません。

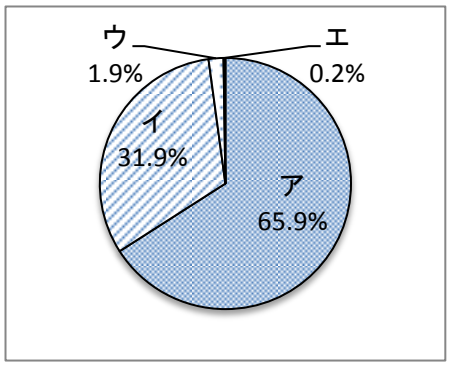
全体、市町村教委、中学校、高校、すべての対象区分で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割以上となっており、定時制の学力検査問題を全日制の問題と異なるものにしたことについて、肯定的に受け止められている。

Q15　クリエイティブスクール及び多部制定時制高校（相模向陽館高校）では、その設置趣旨を生かした選考方法としたことについてどう思いますか。

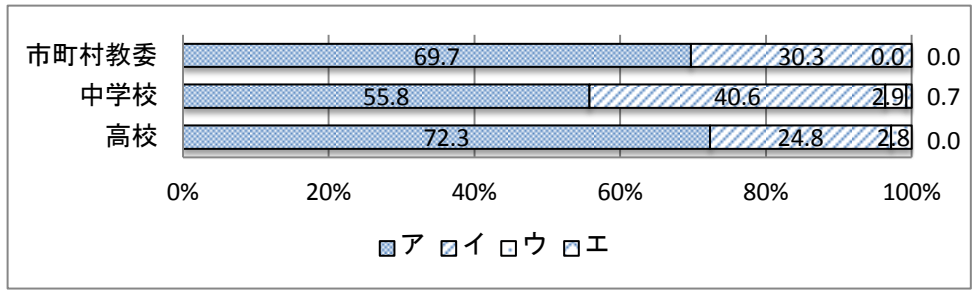
ア　よいことだと思う　　イ　どちらかといえばよいことだと思う

ウ　あまりよいこととは思わない　　エ　よいこととは思わない

全体の比率



回答者ごとの比率



＊生徒（新入生）及び保護者には聞いていません。

全体、市町村教委、中学校、高校、すべての対象区分で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」という回答が9割以上となっており、クリエイティブスクールや多部制定時制の高校で設置趣旨を生かした選考方法としたことについて、肯定的に受け止められている。

一方で、自由記載欄には、中学校から「クリエイティブスクールも基本問題の学力検査を実施すべき。」という声もあった。

自由記載欄に記入された上記以外の内容については、①日程について、②選考資料についての声が多かった。（主な意見の抜粋）

①日程について
- 学力検査から合格発表までの期間が長すぎる。（生徒（新入生）・保護者）
- 学力検査終了後、土日をはさみ、特色検査・面接と日程が長く、体調管理に気を遣った。（保護者）
- 志願変更の期間が2日間では短い。（保護者・中学校・高校）
- 私立と県立の試験日程が近く、負担が大きかった。（保護者）
- 高校の在校生の自宅学習日を短縮してほしい。（高校）

②選考資料について
- 面接は必要ない。（保護者・高校）
- かつてのアチーブメントテストのような統一テストを実施できないか。（保護者・高校）
- 中学校時代の実績も意欲として評価できるようにしてほしい。（高校）

③その他
- 面接の得点についても簡易開示で見られるようにしてほしい。（生徒（新入生）・中学校・高校）
- 以前のように学区があっても良いのではないか。（保護者）
- 塾に通っていない子供には、どのくらいの点数が必要か、面接がどうなるかなど学校の説明だけではわかりにくく、志望校の選択に迷った。（保護者）